

街暮らしの新たな魅力を見つけるために

街なかで自分らしく暮らす人にお話を伺いました。



宮崎 知幸さん

コミュニティカフェTOJIN茶屋 店長

ばあちゃんになるまで、ずっと
ここで何かしているんでしょうね



今年で佐賀に来て16年目、本当にあつという間です。今回メッセージを書くにあたって、なぜこんなに佐賀に長いることになったのか、そして佐賀に来てから今まで、振り返ってみました。佐賀へ来たのは大学進学がきっかけで、在学中は栄養学などを勉強。卒業後にそのまま佐賀の病院で管理栄養士として働いていたんですけど、「もっと食育に関わりたい。もっと料理を食べてもらいたい。子どもと触れ合いたい」という思いが強くなり、その後は飲食業の道へ。いくつかの飲食店を経て、昨年からTOJIN 茶屋の店長を務めています。実はこの TOJIN 茶屋という場所、「後から振り返ると人生で大きな転機になるのでは?」と密かに感じています。

今まで働いていた店では店をまわすことが中心でした。しかし今はこの場所を拠点に「街」に関わるようになっています。そのきっかけは唐人町商店街振興組合青年部への仲間入りであり、栄のくにまつりやライトファンタジーとの関わり。以前はてっきりこれらを市役所のイベントだと思っていたんですが、実際は「街の人達」が中心に運営されていることを聞き、びっくり。その時「街って動いているんだ」、「行政任せばかりじゃないんだ」と心から実感しました。その証拠に、青年部のみんなには今まで続けてきたことを引き継ぎながら、若さで街に新しいことを仕掛けているという機運があります。例えば佐賀城下ひなまつり。栄のくにまつりと比べると唐人町は少し盛り上がりに欠けていたので、来年こそは!と、既にいろいろ企んでいます。また今開催中のライトファンタジーは、すっかり佐賀の冬の風物詩として定着。通りのイルミネーションの飾り付けは青年部でパートごとに分かれ、店舗との交渉から設置までみんなでやっています。「この木、ライトの付けにくかねえ」など話しながら、どういうやり方だと付けやすいか、外しやすいのかを試行錯誤。ただみんな仕事をしていて作業できる時間もバラバラなので、それそれが空いた時間を使ってやらざるをえないのですが、「自分たちの手」で作業をするから、イルミネーションがとても可愛く思えるのです。

そんな街との関わりだけでなく、TOJIN 茶屋としても目標があります。例えば毎月19日(食育の日)に開催している、「さがこども食堂」。11月19日で六回目を迎えます。そもそもこども食堂とは、東京をスタートに全国に広がっている貧困家庭対策の地域的取り組み。はじめは佐賀でも食育の知識や経験を活かせるかもしれないと思って



街なかかわらばん INFO ごあんない

ご意見・ご感想、お問い合わせはコチラへ

街なかかわらばん 編集室

TEL 0952-22-7340
FAX 0952-22-7346
MAIL kawaraban@humanite-saga.com

個人的に読書は大好き。でも常に頭でっかちになっているのでは?と自分を疑ってしまいます。難しく考えすぎるなあって思ったら、まず人に聞きます(笑)。
(編集長 庄野雄輔)



あなたの、かかりつけ薬局。

地域とともにくすり屋 106年
ミズ・溝上薬局

<http://www.miz-pharmacy.co.jp/> ミズ 検索

人とまちをつなぐ新聞

街なかかわらばん



2016.11.15号

no.22

Machinaka Kawaraban

街なかのおすすめ貸貸情報更新中!

www.kawaraban-web.com

本は“出会い”的なきっかけ

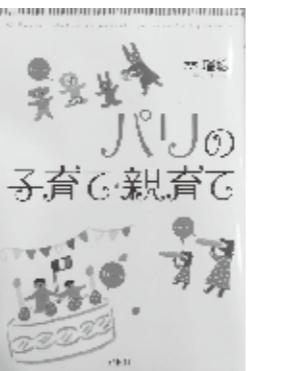
~ “さが街なか図書館”を体験! ~

本をきっかけに魅力的な出会いをゲットする。これは読書の新たな楽しみ方の一つかもしれません。そこで今回は『さが街なか図書館（通称“街としょ”）』という企画の体験レポートを、BOOKレビューも交えて紹介。これは街なかに多くのミニ図書館を作る取組みで、参加各店の本棚のテーマや蔵書を店主が設定しています。「あのお店に行けば興味のある本や情報が得られる!」「あの店主に会いにまたあの店まで!」など、お店とのコミュニケーションを楽しめたり、本に書いていない情報を得られたりするかもしれません。

街としょ BOOKレビュー

●本棚の場所: カフェプラッサンス

●本棚のテーマ:「フランス」



『パリの子育て・親育て』

著者: 林 瑞絵 / 出版社: 花伝社

フリージャーナリストがパリで体験した、妊娠・出産・育児の10年間。子育て先進国と言われるフランスで、日本人として、シングルマザーとして見た現実は?著者の妊娠発覚から始まる物語です。金銭面だけでなく、産前産後の心身に至る様々な面で国からの支援が充実していることに驚きます。寝る時にパンツをはかない、掃除や給食当番がない、など日本人には「え?」と思わず声を出してしまうエピソードも。またパートナーシップにも触れていています。日本では子供が生まれると母親としての女性像が強いことに対して、フランスでは、いつまでも女性として、また仕事人としてのスキルも必須だとのこと。「なかなか厳しい!」が日本人である私の正直な感想ですが、その環境がパワフルで自立しているフランス人女性像を作っているのだろうと感じます。どちらが良い悪いではなく、日本とフランス、それぞれの国の常識や習慣の違いを、面白おかしく紹介してくれる一冊。子育て中の方にオススメです。

[INFORMATION] カフェプラッサンス ☎0952-97-9378 ●佐賀市具服元町2-24 ●営業時間: 11:30~18:00 ●定休日: 水・日曜 ●駐車場/なし

街としょ BOOKレビュー

●本棚の場所: FINDER

●本棚のテーマ:「写真」



『HOPE そら、青くなる』

著者: ハービー・山口 / 出版社: 講談社

写真集を手にする時間は、暮らしの中でも特に贅沢なひと時ではないかと思います。この写真集は、小さな子どもからお年寄りまで、市井の人々の日常を温かく細やかな視線で切り取ったものです。その数は全125枚。どこで会ったかもしれない人々、自分もどこかに写っている様な錯覚を見る風景、もしかしたら数年後の未来が写っている様な写真…それらに、そこに暮らす人々の体温を感じ、匂いをかぐ事さえできる様な気ができます。一枚一枚とゆっくりとページをめくるうちにいつの間にか元気が出るのは、撮影者ハービー・山口氏の祈りが写真に宿しているからだと思います。その祈りとは「一枚の写真が多くの人々に希望を与え、いつの日か、この社会が今よりずっと優しくなること」。写真集の題名にある通り、この一冊に込められた「希望」を本を手に取ることでたくさん的人に受け取ってほしいと思います。

[INFORMATION] FINDER ☎0952-22-6911 ●佐賀市唐人1-5-40 1F ●営業時間: 12:00~21:00、日曜祝日~18:30 ●定休日: 水曜 ●駐車場なし(近くに有料駐車場有り) <http://find-earth.petit.cc/>

街としょを体験

記者
さが移住年目アラサー 女性
清家 麻衣子



▲店主 園田さん

▲場所は656 広場のすぐ北のビル2F

フランスと佐賀の意外な関係を知っていますか?

フランスでは、日本の浮世絵が人気ですが、その発端に実は佐賀が関わっているんです。1867年日本が初めてパリ万博に出店した際、佐賀の「有田焼」の包み紙が浮世絵の柄だったそう。出展品ではなく包み紙だったため、多くの人の目に触れたのではと言われています。ヨーロッパで巻き起こるジャポニズムの一端を佐賀県も担っていたなんて不思議ですね。「フランスでは、映画・音楽・美術などの芸術に国から手厚い補助があります。世界的なファッションショーのパリコレでも分かるように、それらが芸術の質を上げ続ける要因でもあるんですよ」と店主の園田さん。佐賀日仏協会事務局長で、経営するカフェプラッサンスは佐賀事務局でもあります。佐賀でフランスを感じたい方は、ぜひカフェへ足を運んでみて下さい。

街としょを体験

記者
街なか楽しみ見つけ隊
谷口 幸恵



▲店主 平片さん

▲場所は中央大通り沿い

「瞬を切りとる」カメラの魅力に出会うカフェ

スマートフォンやデジタルカメラの普及で写真撮影が身近になった昨今、フィルムでの写真撮影が好きだと言われる店主平片康一朗さんにお話を伺いました。“街としょ”的本棚に並ぶ本のテーマは「写真」。良い写真の撮り方の本、写真がモチーフになっている小説、写真集などなど。お店はレンタルギャラリー、そしてなんと!レンタル暗室もあります(体験も可能)。また、特にカメラに興味のない方も気軽にふらっと立ち寄って、静かに美味しいコーヒーを手作りのケーキを楽しんではいいお店です。また過去には「写ルンです」を使って街歩き写真撮影会などの企画もあり。街歩きが一段と楽しくなり、一期一会、現像してみるとドキドキが続くフィルム写真や、カメラの魅力に触れてみませんか。